あきた海ごみゼロプロジェクト（CFB・海と日本2022）

あきた海ごみゼロプロジェクト実行委員会

＜秋田が持つキラーコンテンツと共に、あきたの海ごみゼロを目指す！＞

県民ひとりひとりが持つ、海洋ごみ問題の知識や関心が浅く、ごみの分別、ごみ削減の気運が低いことが問題と考える。 県民にごみに対しての関心を持ってもらうべく、地域に根付き、地元から愛される漫画アニメや秋田犬、イベント、スポーツなど多様な分野と連携を図る。また、あきたの海ごみゼロを目指す取り組みの場を拡大させ、「無関心」を払拭し、幅広い層の県民に海洋ごみの現状を認識してもらい、身近なところから、自発的にごみ削減を意識した行動へ移す心を醸成する。

■釣りキチ三平資源回収BOX ＆ 顔出しパネル フォトスポットモデル
【課題】 海洋ごみ問題の無関心層に訴求！ ごみ抑制、分別、リサイクルの徹底

・概要：釣りキチ三平とごみ削減を呼び掛ける
・目的：県内外の観光客に観光のフォトスポットとして楽しみながら、海ごみゼロ活動を訴求
・場所：横手ふるさと村、県内道の駅3箇所
・連携先：にかほ市観光課、道の駅きさかた、にしめ、ごじょうめ、まんが美術館、秋田ふるさと村
・効果：インパクトのあるBOX、パネルを秋田の代表的な観光施設に置くことで、多くの方が目にし、ごみ問題の訴求が可能、家庭ごみの投げ捨てが減少
指標数字 年間来場者数 ふるさと村＝62万人 ・道の駅五城目＝12万人、西目＝18万人、象潟＝42万人

■出発！釣りキチ三平拾い箱「三平ごみ拾い活動」 ～みんなで海ごみゼロへ～
【課題】 ごみに対しての自分事化、ごみへの「無関心」を払拭 海を大切に思う気持ちの醸成

・概要：三平出前式拾い箱お披露目会を実施 会場に拾い箱を設置、拾い箱の啓発と共に、楽しみながらのグループでのごみ拾いを実施
・目的：ごみ拾い活動を通して、ふるさとあきたの海を大切にする気持ちを醸成
・場所：男鹿市、海岸２カ所/漁港１ヶ所
・連携先：男鹿市、小中高校 全7校
・効果：三平拾い箱を通して、三平とのごみ拾い活動の記憶を植え付け、今後の行動変容を促す
・指標数字 小中高校参加生徒875名 行政学校関係者 ３８名

■漁場をきれいに！子吉川はぜ釣り大会と連携 釣りキチ三平清掃活動
【課題】 釣り人増加による釣り場のごみ問題、マナー改善訴求

・概要：釣り場、釣人のルールやマナーを再確認、釣場のごみ拾い、ポイ捨て禁止の啓発
・目的：釣り人へのごみ抑制、削減、マナー啓発
・場所：由利本荘市 ポートプラザアクアパル
・連携先：由利本荘市、漁業協同組合、由利本荘市観光協会、子吉川はぜ釣り大会事務局
・効果 三平を使用することで釣り人への共感性が高く、ルール、マナーの再確認がスムーズ。釣場のごみは釣り人が出したごみという理解 三平ステッカーを求める釣り人による自発的なごみ拾いアクションの拡大

■山並み走破！100㌔ ウルトラマラソンプロキングチャレンジ
【課題】 海洋ごみの8割は内陸部からのごみ 山間部からのごみ抑制

・概要：プロキングチームを編成、ランナーや大会ボランティアと共に山間ごみ拾いを実施。CFBブースを設置しごみ削減を啓発
・目的：海ごみのおおもと内陸、山間部からのごみ発生、海ごみ抑制活動
・場所：スタート角館- ゴール 鷹巣 100㌔間
・連携先：仙北市、北秋田市、マラソン事務局、
・効果：新スポーツ「プロギング」の啓発、プロギングランナーの声「徳を積んでいる感じで苦にならない」、山間地における車からの大量の投げ捨てごみが判明！投げ捨てごみ抑制が課題
・指標数字 参加ランナー850人、大会ボランティア 2000人以上

その他：犬の散歩でごみ拾いイベントＩＮ大館 秋田犬と共に 企画

メディア露出

5/30（月）道の駅
県内3箇所 道の駅へ資源回収BOX贈呈
「ABS news every」

9/30（金）
子吉川はぜ釣り大会
三平清掃活動 「えび☆ステ」

7/1(金)～10/31(月)
「犬の散歩でごみ拾いCP」CM30秒
現状150本以上 放送済

毎月最終月曜放送 CFBコーナー企画
「ラジオで応援！海ごみゼロを目指して！今できること～」
ラジオカーによる生中継！ブログ更新

その他：TV 16本 ラジオ中継：13 回 WEB30本 掲載

2022年度の課題とこれからの展望

秋田の海を守りたい気持ちは多くの県民が持っているが、何から始め、何をすべきかが不透明であり、他人事。 ごみ削減に繋がる行動、自分にもできる些細な取り組みとは何かを、イベントなどを通じて啓発、継続する必要がある。 来期も、連載50周年となる釣りキチ三平との連携をベースに行政、市民、企業を巻き込み、一過性のものとせず、県民に興味を持ってもらえるモチーフを使い、ごみの削減活動を行う。また、秋田沿岸に出没する全国的に珍しい「ごみ地層」ができる原因を探るなど、ホットスポットでの調査も実施し教育現場で活用してもらう。 このほか、昨今問題となっている釣場のごみ問題を踏まえ、釣具店との連携により直接的に釣り人へのごみ抑制、釣り場のルール、マナーの啓発を行うなど、 来期も、沿岸はもちろん内陸、山間部での活動にも力を入れ、県民ひとりひとりが、ごみ削減に向けて身近なところから行動に移す心を醸成していく。